

(2) 現場での取り組み

港に隣接する築20年を経過した某工場の配管更新工事において、カーボンニュートラルに寄与する長寿命化の観点から、塩害や老朽による配管劣化の心配がない高性能ポリエチレン管を採用しました。



図37 海岸沿いの工場（出典：SEKISUIエスロンタイムズ）
（川崎設備工業株式会社より資料提供）

配管用炭素鋼鋼管に比べ、管内面に錆コブが出来ず、管材の長寿命化ができます。また、管材の重量も配管用炭素鋼鋼管に比べて約半分と軽量で施工時の現場の負担も軽減されます。施工も空調に特化した施工会社でなくても、メーカーの施工説明を現場で受講したものであれば施工可能です。また、同時に保守メンテナンスも軽減されるので、効果的です。